

試料・情報分譲申請用研究計画書(概要)

研究番号	2020-0027	利用するもの	情報: 1.3.1平成25年度 Japonica v2/v1/Omni2.5/OmniExpressExome解析対象者23K(2018年7月19日リリース) 最大498検体分		
主たる研究機関	ロート製薬株式会社	分担研究機関	なし		
研究題目	血漿プロテオームデータを用いた末梢組織加齢に寄与する因子の探索		研究期間	2021年5月1日～2023年3月31日	
実施責任者	佐藤 康成	所属	ロート製薬株式会社	職位	研究員
研究目的と意義	本研究を通じて、加齢と性差の両方で大きく変化する標的タンパク質を解明し、in vitroの2Dおよび3D細胞皮膚培養におけるその効果を評価し、皮膚の老化における要因を明らかにしたいと考えている。本成果を活用し、皮膚老化に作用する成分を探索し製品に応用することで、多くの方のQOL向上に貢献することを目的とする。				
研究計画概要	<p>皮膚老化は、外部環境因子に対するバリア機能を低下させ、皮膚機能障害を引き起こす。従って恒常性を維持するためには、皮膚老化を抑制させることが望ましい。一方、皮膚老化研究は、ヒトや動物を用いた実験を行う際の規制により、その方法論に限界がある。</p> <p>皮膚と血液の老化には相関性があることが報告¹⁾されており、加齢による血液中因子への影響を解明することで皮膚老化に関連する因子の発見が期待される。そこで本研究では血漿のプロテオームデータを用いて、皮膚老化と相関関係にあるタンパク質群を得ることを目的とする。</p> <p>サンプルを2つのクラスタリング方法によって、分類しそのクラスター間での発現変動タンパク質を同定し、皮膚加齢との関係性をin silico解析を用いて見出す計画である。</p> <p>1)S. Horvath et al., Aging (Albany NY)., (2018)</p>				
期待される成果	加齢に伴う蛋白発現の差異と末梢組織の老化との関係性をを見出し、調査結果をアンチエイジングまたは健康的なエイジング製品の開発につなぎ、日本の高齢化社会におけるQOL向上に向けて重要な製品開発に繋がる。				
これまでの倫理審査等の経過および主な議論	2021年4月7日付けでロート製薬臨床研究等倫理審査委員会にて承認を受けている。				
倫理面、セキュリティ面への配慮	弊社では個人名とデータが連結できない状態で提供いただくことになっており、個人情報保護の観点で配慮している。また、提供された一次データに関しては、弊社関係者のみでアクセス可能なフォルダ内で取り扱うこととする。				
その他特記事項	特になし				
(事務局使用欄)	令和3年6月8日				
* 岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク事業に協力された方で、本研究に限って試料・情報の利用を希望されない方は、下記までご連絡下さい。 岩手医科大学いわて東北メディカル・メガバンク機構 019-651-5110(5508/5509)					